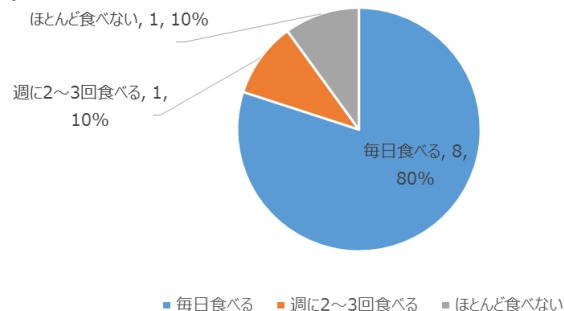


5) 問 5 (事前)

「朝食を食べているか」については、参加者全体の 80%が毎日食べていることから、本取組の参加者の朝食の欠食率は低いことがわかる。

普段「朝食」を食べていますか？ ご自身の状況に近いものを選んでください。



6) 自由回答 (事前)

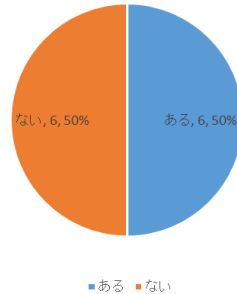
様々な回答があるなかで、栽培や加工など、日頃、食しているものがどのように作られているのかを知りたいという気持ちがあり、参加されたことが伺える。

今回のイベントで知りたいことや参加への意気込みなど、ご自由に記入ください。(500文字以内)
キノコの保存方法やどこまで食べられるのかをぜひ生産者の方に教えていただきたいです。
しめじはどのように 栽培 収穫されるのか？ 栽培に適した気候・土地。健康にどのような効果があるのか？ おススメレシピ。
スタッフさん方とたくさんお話しできることを楽しみにしています
ぶなしめじがどんな風に出来ているのかみせてあげたい！
ローソンがこのような工場を持っていることを知らなかったのですが、生産から流通・販売までの流れを子供と一緒に学びたいと思います。
ローソンって農場をもっていたんですね。知りませんでした。私も娘もぶなしめじがなってるところを見たことがないので、是非見てみたいです。家で、ぶなしめじがもし作れるのなら作り方を知りたいです。 とても勉強になりそうなツアーなので是非参加したいです。
夏休みの自由研究に子供との楽しい思い出にぜひ参加したいです。
私も息子も、きのこ大好き！！ しめじもよく食べます。 収穫体験は初めてなので、息子にこの話をしたら、とても行ってみたいと言っています。 親子イベントの参加条件が小学生以上というのが多く、息子の小学校入学を待ち望んでいました！ぜひ、参加してみたいです。
和食が大好きな娘たちのいる我が家、もちろん、キノコ類もお野菜も大好きです。収穫体験、なかなかできない貴重な体験をぜひ小学校1年生の次女に体験させてあげたいと思い応募させていただきます。普段、スーパーでパックになって売られているしめじがどのように木になっているのか見たらとても喜び、勉強になると思います！！

1) 問 1 (事後)

事後で参加者が若干増えたこともあるが、今回のような収穫体験のようなイベントに参加したことがある人となない人はちょうど半々であり、農作物の生育過程等を体験させることができたのはよかったと思われる。

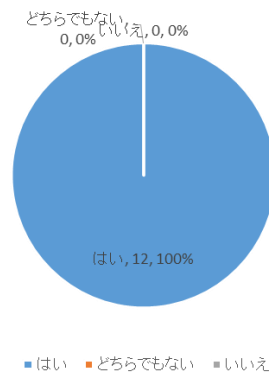
Q1 過去に、今回のような「収穫体験イベント」に参加したことがありますか。



2) 問 2 (事後)

バスの移動時間を活用し、食育関連の説明を行ったが、全員がわかりやすかったと回答。理解を促すことができたと思われる。

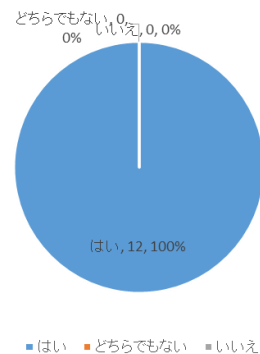
Q2 バス車内での食育関連の説明はわかりやすかったですか



3) 問 3 (事後)

こちらも、バスの移動時間での食育関連節目同様、全員がわかりやすかったと回答。ぶなしめじの生育過程等の理解が図られたと思われる。

Q3 ぶなしめじ工場の説明はわかりやすかったですか



4) 問 4 (事後)

ぶなしめじの生育過程を体験する中で、生育過程を見られたことをはじめ、原木ではなく菌床椎茸であること、室内で栽培されていることなど、栽培＝露地というイメージがあるなか、今回の体験先は非常に興味深いものだったと思われる。

Q4

ぶなしめじ収穫体験を通じて、感じたことを自由にお書きください。

親子で初めてぶなしめじが成長していく様子を見て、また自分の手で収穫することができ、とても感動しました。子供達の「うわぁー!」という声も聞けて嬉しかったです。

温度、湿度、明るさなど、いろんな管理をされて出来上がっていることを知りました。5000～10000株と、大量のしめじは圧巻でした。

機械が動いているところを見なかったです。

菌からできるのが不思議。

菌床からできるまでを見て良かったです。徹底した管理の下で作っていることがわかりました。

工場と聞くと、もっと大規模なものを想像していましたが、ぶなしめじは小さな工場でも出荷量が多いのだと思いました。よりよい商品になるように研究されている努力が分かってよかったです。

しめじの成長過程が見れて、勉強になりました。今後、しめじを見たら、本日のことを思い出したいと思います。

社長さんが、菌床から加工までを一緒に回って説明して下さり、とてもわかりやすく楽しかったです。子供もきちんと話を聞けたかは分かりませんが、イキイキして良い体験になりました。

普段スーパーで買っているぶなしめじが出来る様子を子供に見てもらえたことが嬉しかったです。

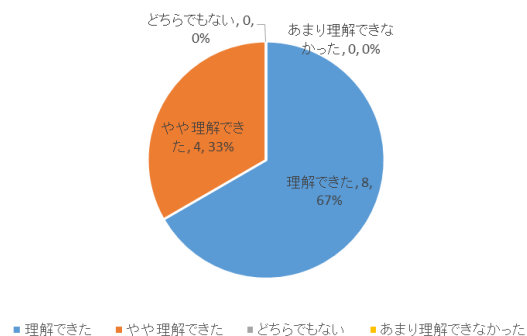
普段入れない場所に入り、全く気にしたことのないキノコ類について勉強になりました。

ぶなしめじに愛を感じるようになりました。

5) 問 5 (事後)

事前では「知っている」「聞いたことがある」と答えた者が全体の 50%であるのに対し、全員が「理解できた」「やや理解できた」となったことから、本取組による日本型食生活の訴求は非常によかったと思われる。

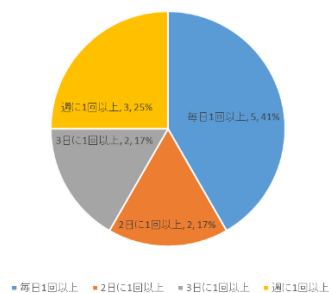
Q5「日本型食生活」について理解できましたか



6) 問6 (事後)

全員が何らかの形で「今後、日本型食生活を実践していく」と回答。事前のアンケートでは、「日本型食生活」自体、知らない者が参加者の半数であったことから考えると、理解と意識の醸成はなされたと思われる。

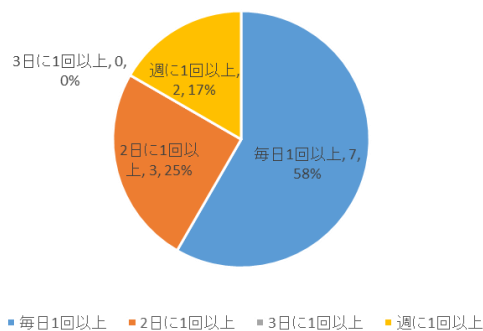
Q6 今後、「日本型食生活」を毎日の食生活でどのくらいの頻度で実践していくか教えてください



7) 問7 (事後)

参加された全員が回数は別として、毎日の食生活で「野菜」「キノコ類」を摂取すると回答。事前アンケートより毎日1回以上摂取する割合が低下したのは、事前より回答者が増えていることなどが要因としてあげられるのではないだろうか。

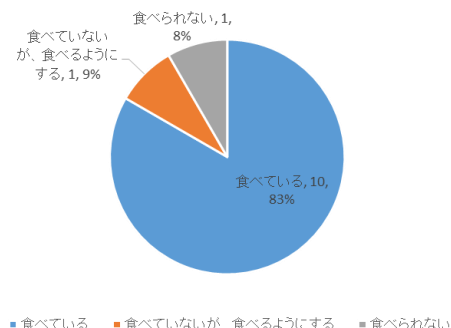
Q7 毎日の食生活で「野菜」や「キノコ類」をどのくらい摂取していこうと思いますか



8) 問8 (事後)

事前同様、食べている割合が高いが食べていなかった層が食べると意識が変わったことは評価できる。なお、「食べない」ではなく、「食べることができない」については、生活環境等の都合もあることから、やむを得ないと思われる。

Q8 毎朝、「朝食」を食べるようにしていますか。食べていない方は今後食べるようにしたいと思いますか



9) 自由回答 (事後)

対象年齢による内容や集合時間等については、参加者から要望があったが、それ以外は基本的に内容もよく評価されていると思われる。

Q9

今回のツアーで気になった点、ご要望があればご自由に記入ください。

8:00大崎は早すぎなので、せめて、8:30~18:00が良かった。星食は食べきれない位でした。かまめしが一番美味しかったです。きのこファームに入って、普段は見れない所を見学できて嬉しくも本当に楽しかったです。

親子共楽しく過ごせました。しめじ収穫は子供にとって良い体験になったと思います。また、このようなイベントがあったら参加したいです。ありがとうございました。

小学生低学年には、少しハードルが高い内容でした。

初対面の子とも、子供はすぐに仲良くなり、収穫体験と同じくらい良い経験になったと思います。また、機会があれば色々参加したいと思います。

大変ためになりおもしろかったです。TVでは見たことがあったけれど、実際見ることができて、すごい圧迫されました。普段、コンビニをよく利用するパパも含めて、家族で参加できるのは嬉しいなと思いました。

食べ物の大切さを知るのはい。とても楽しく盛り上げて下さって良かったです。

とても楽しませて頂きました。また、このようなローソンさんを身近に感じられる企画を楽しみにしています。近くのローソンに行くのが楽しみになりました。

とても勉強になったツアーでした。

バスは静いやすいので、文書など読まずにお話してくれたのは、とても良かったです。

星が遅かったですが、腹が減って、一層ご飯がおいしかったです。

(3) Ponta 会員対象

Ponta 会員を対象にした CP 中、実施後の食生活アンケート結果は下記のとおり。

1) 問 1 (CP 中)

回答者の性別の割合は、男性が若干多いだけで、ほぼ同数の割合となっている。

Q1	あなたの性別をお知らせください。(ひとつだけ)	N	%
1	男性	792	53.5
2	女性	688	46.5
	全体	1480	100.0

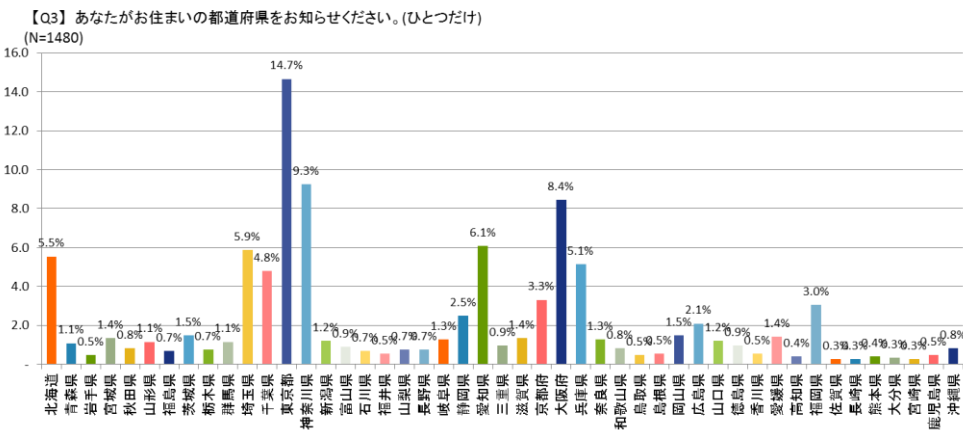
2) 問 2 (CP 中)

全体のうち、25～29 歳代が 16.8%と最も割合が多く、次に 35～39 歳代の割合が多かった。

Q2	あなたの年齢をお知らせください。(ひとつだけ)	N	%
	1～19歳	0	-
	20歳～24歳	116	7.8
	25歳～29歳	249	16.8
	30歳～34歳	123	8.3
	35歳～39歳	190	12.8
	40歳～44歳	146	9.9
	45歳～49歳	140	9.5
	50歳～54歳	160	10.8
	55歳～59歳	97	6.6
	60歳～	259	17.5
	全体	1480	100.0

3) 問 3 (CP 中)

会員のうち、東京都に居住する者が全体の 14.7%と最も多く、次に 9.3%の神奈川県、8.4%の大阪府の割合が高かった。



4) 問 4 (CP 中)

「日本型食生活の認知度」については、「意味を含め知っている」「言葉を聞いたことがある程度」の合計が約 47%と「知らない」を下回っており、認知度が低いことがわかった。

Q4	あなたは「日本型食生活」という言葉や意味をご存じですか。(ひとつだけ)	N	%
	1 意味を含めて、知っている	193	13.0
	2 言葉を聞いたことがある程度	512	34.6
	3 知らない	775	52.4
	全体	1480	100.0

5) 問 5 (CP 中)

「日本型食生活」の実践度を見てみると、全体の約 45%が、「ほとんど実施している」「おおむね実践している」と回答。これは、認知度の結果と非常に近いため、「認知＝行動している」とも読み取れる。このような仮説を立てることができるのであれば、

「日本型食生活」の啓蒙は望ましい食生活につながることになるだろう。

Q5	あなたは直近1ヶ月間に、“日本型食生活”を実践していますか。(ひとつだけ)		
		N	%
	1ほとんど実践している	118	8.0
	2おおむね実践している	537	36.3
	3あまり実践していない	533	36.0
	4まったく実践していない	292	19.7
	全体	1480	100.0

6) 問6 (CP 中)

「日本型食生活」を「ほとんど実践している」「おおむね実践している」者が、どの程度の期間実施しているかについて、毎食または1日のどこかで実践している者の割合が全体の約75%と非常に高い割合を示している。したがって、実践している者は非常に意識が高いため、その実践頻度も多いことがわかる。

Q6	前の質問で、“日本型食生活”を「ほとんど実践している」「おおむね実践している」と回答した方に伺います。あなたは日本型食生活をどの程度の期間で組み立てていますか。(ひとつだけ)		
		N	%
	1ほとんど毎食で実践している	122	18.6
	21日のどこかで実践している	377	57.6
	32、3日のどこかで実践している	120	18.3
	41週間のどこかで実践している	36	5.5
	全体	655	100.0

7) 問7 (CP 中)

朝食を摂取する頻度について、毎日または週5以上朝食を摂取する割合は、全体の約73%であり、その割合は非常に高く、会員の朝食については欠食率が低いことがわかる。

Q7	あなたは、どのくらいの頻度で朝食を食べますか。(ひとつだけ)		
		N	%
	1毎日朝食を食べる	913	61.7
	2週に5日以上は食べる	180	12.2
	3週に3日以上は食べる	132	8.9
	4ほとんど朝食を食べない	255	17.2
	全体	1480	100.0

8) 問8 (CP 中)

朝食で食べることが多いパターンを見てみると、「ごはんやパンなどの炭水化物と、できれば主菜・副菜を食べる」が63.6%と最も多く、「ごはんやパンなど、炭水化物のみ」が59.1%を占めた。忙しい朝ということもあり、主食を手軽に（ワンハンド）で食べることが簡単であり、主菜・副菜を併せたバランスのよい食事を摂ることは現実的に難しいと推測される。

次に朝食の一番多いパターンを見てみると、「ごはんやパンなどの炭水化物と、できれば主菜・副菜を食べる」が43.4%と最も多く、「ごはんやパンなど、炭水化物のみ」が31.9%を占めた。この結果は、「朝食で食べることが多いパターン」とほぼ同

じ傾向であった。なお、この結果だけ見てみると、朝食のパターンとしては、栄養補助食品的なものの割合は低く、しっかりと主食を摂る傾向であることが言えるだろう。

Q8	どのような朝食を食べていますか。 (ひとつだけ)	全体	1	2	3	4	5	6
			ごはんやパンなど、炭水化物のみ	おにぎりやサンドイッチなど、炭水化物に主菜や副菜が組み合わさったものを食べる	ごはんやパンなどの炭水化物とできれば主菜・副菜を食べる	錠剤などによる栄養素の補給、栄養ドリンクを飲むだけ	菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べるだけ	その他
Q8S1	食べることがあるパターン(すべて)	1225 100.0	724 59.1	574 46.9	779 63.6	120 9.8	276 22.5	37 3.0
Q8S2	一番多いパターン(ひとつだけ)	1225 100.0	391 31.9	191 15.6	532 43.4	12 1.0	67 5.5	32 2.6

9) 問9 (CP 中)

「食事バランスガイド」の認知度を見てみると、「意味を含めて知っていた」と「見たり聞いたりしたことがある程度」の合計は約70%弱となり、認知度自体はそれほど悪くないことがわかった。

Q9	”食事バランスガイド”をご存じですか。(ひとつだけ)	N	%
	1:意味を含めて、知っていた	313	21.1
	2:見たり聞いたりしたことがある程度	689	46.6
	3:知らない	478	32.3
	全体	1480	100.0

10) 問10 (CP 中)

野菜の摂取量を見てみると、「毎日食べている」「1日に1回は食べている」の割合が約70%となり、対象者の野菜摂取の意識と行動は比較的望ましいと思われる。

Q10	あなたは、1日にどのくらい、野菜を摂取していますか。(ひとつだけ)※おおよその回数をお知らせください。	N	%
	1:毎食食べている	374	25.3
	2:1日に1回は食べている	686	46.4
	3:2-3日に1回は食べている	224	15.1
	4:4-5日に1回は食べている	57	3.9
	5:1週間に1回は食べている	38	2.6
	6:それ以下だが、食べている	44	3.0
	7:食べていない	57	3.9
	全体	1480	100.0

11) 問11 (CP 中)

野菜の摂取量（おおよそのグラム数）を見てみると、「70～140g未満」が19%と最も多く、次に「140～210g未満」が15.3%と続いている。野菜の摂取する人の割合は高いが、一人当たりの野菜の摂取量350g以上を摂っている割合は全体の5.8%

であることから、意識し行動しているが、必要量には達していないことがわかる。

Q11	あなたは、1日にどのくらい、野菜を摂取していますか。(ひとつだけ)※おおよそのグラム数をお知らせください。		
		N	%
	1:70g未満	165	11.1
	2:70-140g未満	281	19.0
	3:140-210g未満	226	15.3
	4:210-280g未満	93	6.3
	5:280-350g未満	81	5.5
	6:350g以上	86	5.8
	7:わからない	548	37.0
	全体	1480	100.0

1) 問1 (CP 後)

回答者の性別の割合は、CP 前同様、男性が若干多いだけで、ほぼ同数の割合となっている。

Q1	あなたの性別をお知らせください。(ひとつだけ)		
		N	%
	1:男性	615	51.5
	2:女性	580	48.5
	全体	1195	100.0

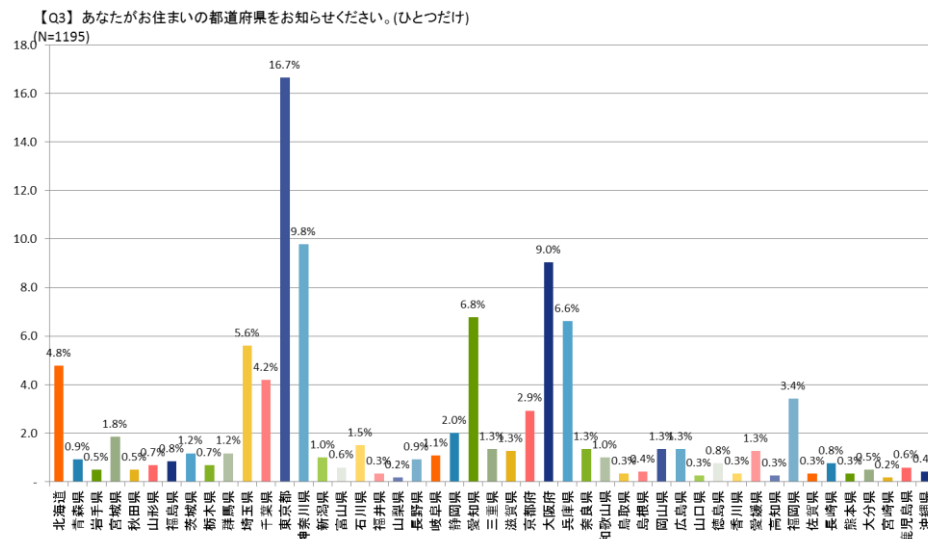
2) 問2 (CP 後)

全体に占める年齢層の割合は、若干のパーセンテージは異なるものの、その構成はCP 前と同様であり、25～29 歳代が最も割合が多く、次に 35～39 歳代の割合が多かった。

Q2	あなたの年齢をお知らせください。(ひとつだけ)		
		N	%
	1:～19歳	0	-
	2:20歳～24歳	91	7.6
	3:25歳～29歳	178	14.9
	4:30歳～34歳	106	8.9
	5:35歳～39歳	157	13.1
	6:40歳～44歳	118	9.9
	7:45歳～49歳	112	9.4
	8:50歳～54歳	138	11.5
	9:55歳～59歳	93	7.8
	10:60歳～	202	16.9
	全体	1195	100.0

3) 問3 (CP 後)

会員の居住地の割合を見てみると、その割合は若干異なるもの、その順位はCP 中と同じであった。参考までにその割合を見てみると、東京都に居住する者が全体の16.7%と最も多く、次に9.8%の神奈川県、9.0%の大阪府の割合が高かった。



4) 問4 (CP 後)

「日本型食生活の認知度」については、「意味を含め知っている」「言葉を聞いたことがある程度」の合計が約 46.1%と CP 中が約 47%であったことから、認知度については増加することができなかった。しかし、他のイベント系取組だと認知度が向上していることから、参加者の関心事と訴求する内容によって、そのアプローチ手法を変えることが望ましいと思われ、今後の取組手法の参考となった。

Q4	あなたは“日本型食生活”という言葉や意味をご存じですか。(ひとつだけ)	N	%
	1 意味を含めて、知っている	165	13.8
	2 言葉を聞いたことがある程度	386	32.3
	3 知らない	644	53.9
	全体	1195	100.0

5) 問5 (CP 後)

「日本型食生活」の実践度を見てみると、CP 中とほぼ同じ結果（全体の約 45%）の約 44.5%が、「ほとんど実施している」「おおむね実践している」と回答。認知度の結果と全く同じであることから、「認知している＝行動している」となる。したがって、上述したとおり、このような仮説を立てることができるのであれば、「日本型食生活」の啓蒙は望ましい食生活につながることになるだろう。

Q5	あなたは直近1ヶ月間に、“日本型食生活”を実践していますか。(ひとつだけ)	N	%
	1 ほとんど実践している	93	7.8
	2 おおむね実践している	438	36.7
	3 あまり実践していない	428	35.8
	4 まったく実践していない	236	19.7
	全体	1195	100.0

6) 問6 (CP 後)

「日本型食生活」を「ほとんど実践している」「おおむね実践している」者が、どの程度の期間実施しているかについて、毎食または1日のどこかで実践している者の割合は、CP中の全体の約75%と同様、73%となり非常に高い割合を示している。したがって、実践している者は非常に意識が高いため、その実践頻度も多いことがわかることから、先の設問で述べたように、いかに認知させることが大事であるかがわかる。

Q6	前の質問で、「日本型食生活」を「ほとんど実践している」「おおむね実践している」と回答した方に伺います。あなたは日本型食生活をどの程度の期間で組み立てていますか。(ひとつだけ)		
		N	%
	1 ほとんど毎食で実践している	101	19.0
	2 1日のどこかで実践している	287	54.0
	3 2、3日のどこかで実践している	98	18.5
	4 1週間のどこかで実践している	45	8.5
	全体	531	100.0

7) 問7 (CP 後)

朝食を摂取する頻度について、毎日または週5以上朝食を摂取する割合は、CP中は全体の約73%であったのに対し、CP後は約75%となった、その割合はCP中後同様、非常に高く、会員の朝食については欠食率が低いことがわかる。

Q7	あなたは、どのくらいの頻度で朝食を食べますか。(ひとつだけ)		
		N	%
	1 毎日朝食を食べる	767	64.2
	2 週に5日以上は食べる	128	10.7
	3 週に3日以上は食べる	93	7.8
	4 ほとんど朝食を食べない	207	17.3
	全体	1195	100.0

8) 問8 (CP 後)

朝食で食べることが多いパターンを見てみると、CP中は「ごはんやパンなどの炭水化物と、できれば主菜・副菜を食べる」が63.6%と最も多く、「ごはんやパンなど、炭水化物のみ」が59.1%を占めた。CP後はその順位は入れ替わったが、「ごはんやパンなど、炭水化物のみ」が62.8%、「ごはんやパンなどの炭水化物とできれば主菜・副菜を食べる」が62.3%を占めた。忙しい朝ということもあり、主食を手軽に(ワンハンド)で食べることが簡単であり、主菜・副菜を併せたバランスのよい食事を摂ることは現実的に難しいと推測されるが、その反面、「おにぎりやサンドイッチなど、炭水化物に主菜や副菜が組み合わさったものを食べる」が50.2%占めるから、「主食・副菜・主菜」のようなバランスのある食事は難しいものの、サンドイッチのように「主食・副菜・主菜」が組み合わされた複合的料理であれば、簡単にバランスよく食すことができ、このような対象者へのアプローチは効果的と思われる。

次に朝食の一番多いパターンを見てみると、CP中は「ごはんやパンなどの炭水化物と、できれば主菜・副菜を食べる」が43.4%と最も多く、「ごはんやパンなど、炭水化

物のみ」が31.9%を占めたが、CP後は「ごはんやパンなどの炭水化物と、できれば主菜・副菜を食べる」が39.0%、「ごはんやパンなど、炭水化物のみ」が35.3%を占め、CP中後の順位は変わらなかった。なお、この結果だけ見てみると、朝食のパターンとしては、栄養補助食品的なものの割合は低く、しっかりと主食を摂る傾向であることが言えるだろう。

ここまで、日本型食生活の認知度から日本型食生活の実践、そして朝食の摂取、朝食の種類を尋ねてきたが、政策的意義のある日本型食生活の実践による国内自給率向上や生活習慣病予防につなげるためには、まずは知ってもらうことが大事であり、そこがクリアできるとアンケート結果からみても、実践につながる可能性が高いと思われる。

また、食生活上の課題の1つである朝食の欠食については、CP参加者については、欠食率は低く、またごはんやパンといった主食をしっかりたべていることがわかった。

Q8	どのような朝食を食べていますか。 (ひとつだけ)	全体	1	2	3	4	5	6
			ごはんやパンなどの炭水化物のみ	おにぎりやサンドイッチなど、炭水化物に主菜や副菜が組み合わせたものを食べる	ごはんやパンなどの炭水化物とできれば主菜・副菜を食べる	錠剤などによる栄養素の補給、栄養ドリンクを飲むだけ	菓子、果物、乳製品、嗜好品、飲料などの食品のみを食べるだけ	その他
Q8S1	食べることがあるパターン(すべて)	988 100.0	620 62.8	496 50.2	616 62.3	105 10.6	241 24.4	35 3.5
Q8S2	一番多いパターン(ひとつだけ)	988 100.0	349 35.3	164 16.6	385 39.0	5 0.5	57 5.8	28 2.8

9) 問9 (CP後)

「食事バランスガイド」の認知度を見てみると、CP中は「意味を含めて知っていた」と「見たり聞いたりしたことがある程度」の合計は約70%弱となり、CP後の「意味を含めて知っていた」と「見たり聞いたりしたことがある程度」の合計は68%を占めた。CP中後を通して、CP参加者の認知度自体はよかったと思われる。

Q9	”食事バランスガイド”をご存じですか。(ひとつだけ)	N	%
	1 意味を含めて、知っていた	259	21.7
	2 見たり聞いたりしたことがある程度	553	46.3
	3 知らない	383	32.1
	全体	1195	100.0

10) 問10 (CP後のみの設問)

この設問はCP後のみ設けた設問であり、「日本型食生活および食事バランスガイドの言葉をどのようにして知ったか、きっかけを含めて聞いた設問」である。そこで実際に回答結果を割合の高い順に見ていくと、「どこで知ったかわからない/思い出せない」が最も多く、次に「テレビ番組」、「インターネットの記事/広告」「新聞記事/広告」という結果となっている。

日本型食生活および食事バランスガイドが提唱されてから、かなりの年月が経っているが、それら食に関する施策を聞いた場所が上記結果の場所であることはやや意外であり、もう少し、日頃食品を購入、食事をとる場所から聞いたという回答が占めるのではないかと考えられた。このことから、メディア等の媒体を通じて聞いたということは、なんらかの形で行政がその認知度向上を目指して取組まれたのではないかと予想される。仮にその仮説が当てはまった場合、行政の認知度向上におけるアプローチは有効的だったと思われる。しかし、この認知度向上を実際の望ましい食行動に至らしめるためには、食品関連事業者と連携し、商品とつなげ3者がWIN-WINの関係になる取組になることが望ましいと思われる。

Q10	その言葉はどのようにして知りましたか？ さっけけになったものも含めて、あてはまるものをすべてお選びください。(1つづつ)	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
			ローソン 研究所 (HP)内 コンビニ 活用所 ページ	ローソン ファーム ちゃん、と 家族の健康 意識を 高める こと	KFM4 ちゃん、と 家族の健康 意識を 高める こと	ローソン の店頭 で 販売 されている 商品	ローソン の店頭 で 販売 されている 商品	国や地方 自治体 主催の 健康 講座 等	テレビ 番組 等	ラジオ 番組 等	新聞 記事 等	雑誌 記事 等	インターネット 上の 記事 等	メール マガジン 等	LINEや Facebook などの SNS	友人・知 人からの 口伝	その他	どこで 知ったか わからない /思い 出せない
Q10S1	日本型食生活	551 100.0	47 8.5	15 2.7	18 3.3	24 4.4	13 2.4	39 7.1	113 20.5	16 2.9	76 13.8	49 8.9	81 14.7	17 3.1	7 1.3	20 3.6	16 2.9	246 44.6
Q10S2	食事バランスガイド	812 100.0	38 4.7	0 -	15 1.8	27 3.3	0 -	59 7.3	129 15.9	15 1.8	73 9.0	81 10.0	90 11.1	12 1.5	7 0.9	37 4.6	80 9.9	360 44.3

1 1) 問 1 1 (CP 後)

野菜の摂取量を見てみると、あCP中「毎日食べている」「1日に1回は食べている」の割合が約70%となり、CP後は「毎日食べている」「1日に1回は食べている」の割合が約73%となり。CP参加者の野菜摂取の意識と行動は比較的望ましいと思われる。

Q11	あなたは、1日にどのくらい、野菜を摂取していますか。(ひとつだけ)※おおよその回数をお知らせください。	N	%
	1 毎食食べている	302	25.3
	2 1日に1回は食べている	579	48.5
	3 2-3日に1回は食べている	175	14.6
	4 4-5日に1回は食べている	44	3.7
	5 1週間に1回は食べている	33	2.8
	6 それ以下だが、食べている	34	2.8
	7 食べていない	28	2.3
	全体	1195	100.0

1 2) 問 1 2 (CP 後)

野菜の摂取量（おおよそのグラム数）を見てみると、CP中は「70～140g未満」が19%と最も多く、次に「140～210g未満」が15.3%と続いているが、CP後もその傾向は同じである。しかし、ともに1日の必要とされる350gには達していない間こと、「わからない」と回答した者が全体の36.2%も占めていること。この2点に対し、どのように対策を講じていくかが必要となる。特に野菜の場合はサラダや煮物

などの嵩の見え方によって、摂取する量が異なるとともに、「どのような料理の量が何グラムに値するか」を感覚的に想起させないと、具体的行動には至らしめることができないと思われる。

Q12	あなたは、1日にどのくらい、野菜を摂取していますか。(ひとつだけ)※おおよそのグラム数をお知らせください。		
		N	%
	1 70g未満	142	11.9
	2 70-140g未満	205	17.2
	3 140-210g未満	197	16.5
	4 210-280g未満	92	7.7
	5 280-350g未満	59	4.9
	6 350g以上	68	5.7
	7 わからない	432	36.2
	全体	1195	100.0

第4章 総括

今回、ローソンでは、本事業の目的である「日本型食生活」と「食や農林漁業への理解増進に向けた取組」を一体的に推進し、より効果な食育の展開・発信を図り、国産農林水産物の需要拡大に寄与するということに対し、普段、コンビニエンスストアを活用されている「オフィスワーカー」を中心に、食にあまり興味のない方々や、潜在意識として気にしているが実践できない方の課題を解決しうる取組を行った。

これら対象者の課題解決しうるアプローチ手法の着眼点の1つは、「簡便」であり、それは対象者の生活習慣等の特徴から「取り入れやすさ」につながる着眼点である。そして今回、これらの目的を達成させるために、イベントをはじめ収穫体験、店舗告知、会員対象キャンペーン等を行ったが、結論から言うと、人を介した訴求は非常に効果があがり、人を介さない訴求は訴求前後でその効果はほとんど変わらないことがわかった。したがって、国の食育関連施策を十分に浸透させるためには、関心を持っているイベントや体験型の取組内で理解促進させることが望ましいと思われる。

また、アンケート結果から「日本型食生活」を認知している者の実践度を見てみると、おおむね認知度の結果と同じであることから、「認知している＝行動している」となる。したがって、上述したとおり、このような仮説を立てることができるのであれば、「日本型食生活」の啓蒙は望ましい食生活につながることになるだろう。

ここまで、日本型食生活の認知度から日本型食生活の実践、そして朝食の摂取、朝食の種類における対象者の食意識と行動を見てきたが、政策的意義のある日本型食生活の実践による国内自給率向上や生活習慣病予防につなげるためには、まずは知ってもらうことが大事であり、そこがクリアできるとアンケート結果からみても、実践につながる可能性が高いと思われる。